

内科

ギランバレー症候群について

下痢や発熱、感冒症状の1〜3週間後に、主に下肢から上肢に進行する筋力低下を起こし、ときには顔面や嚥下に関与する筋や呼吸筋まで麻痺する、ギランバレー症候群という病気があります。重症化はまれですが、治療に人工呼吸を要することもあります。ほとんどの場合数か月後にはほぼ改善しますが、わずかな

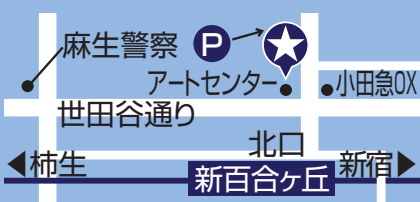
筋力低下が3年以上持続することもあります。全身の神経の異常（脱髄または軸索障害）がその原因で、神経細胞に対する自己免疫反応によって引き起こされます。その多くはカンピロバクターという菌の感染の他、サイトメガロウイルスやEBウイルスの関与も指摘されています。カンピロバクター感染は不十分な加熱の鶏肉の摂取で起こり、菌は肉の内部にも存在しているため、軽く炙ったトリワサや、まだ半生のヤキトリは感染のリスクが高いことを知っておく必要があります。



福本 学

■ 内科

新百合山手福本内科



☎044-955-8877
麻生区万福寺6-7-2
メディカルモリノビル2F
<http://www.fukumotonaika.jp/>